

免震サプレックス施工要領書 (MF-Vシステム ゴム給水・高圧・低圧)

「設置場所と納入品に相違無いことをご確認下さい」

1. 建物側、地盤側の固定架台を取り付けて下さい。
2. 配管を固定架台に取り付けし、取付面間、芯間寸法が設計寸法どおりか確認下さい。

	許容芯ずれ	許容面間誤差
MF-Vシステム ゴム給水・高圧	±25mm (20~80A) ±50mm (100~300A)	±20mm
MF-Vシステム ゴム低圧	±50mm	

3. 免震サプレックスを配管の中に入れて下さい。フランジパッキンは必要ありません。
4. フランジをボルト、ナットで固定してください。

注意点

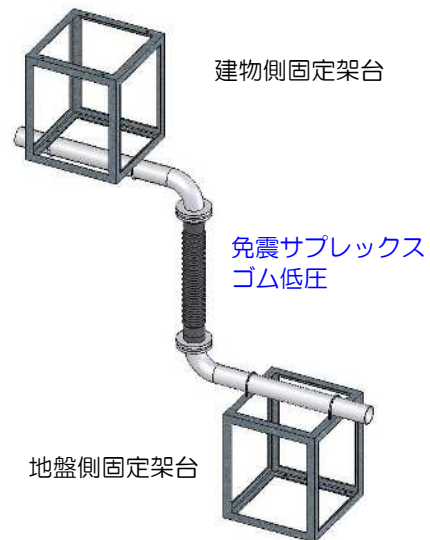
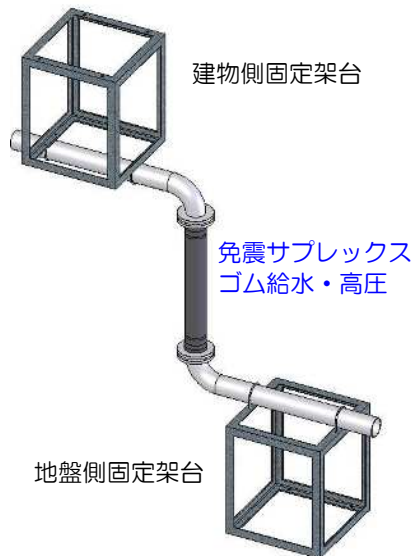
・固定架台は出来るだけ免震継手の直近に設置願います

・左表の誤差範囲内に収まるように配管の施工、芯出をお願いします。

・接続配管はSGPまたは継手の反力値に応じた強度を有する材料を使用下さい。

・ボルトの頭を継手側にして均等に締め付けて下さい。片締めにならないように十分注意下さい。

施工例



注意事項

◎シール面に傷が入らないように注意して作業下さい。

◎相手側配管フランジ面と直接接触してシールするため、相手側フランジの状態によっては使用出来ない場合があります。別資料の”ゴム製免震ルキのフランジ接続について”を参照して、適切な状態で使用願います。

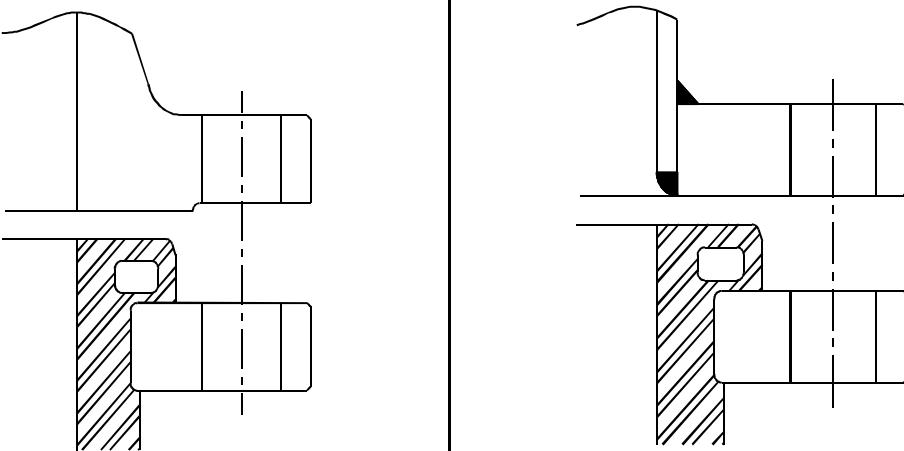
◎ゴム給水用フレキ・GCタイプには、胴部に識別用の黄色ラインがありますが、方向性などは無いので、上下どちら向きに設置しても差し支えありません。

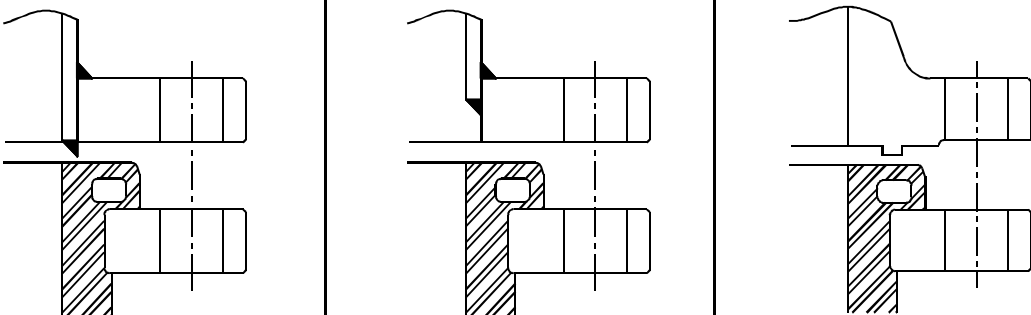
ゴム製免震フレキのフランジ接続について

免震継手として使用されているゴム製フレキシブル継手は、取扱、施工の容易さから各用途に
 応じて広く使用されています。

しかし、ゴム製フレキシブル継手は、その特徴としてシール面のゴムにより相手側配管のフラン
 ジ面と直接シールする為、相手側配管のフランジ面の状態を明確に把握しておく必要があり、
 その判断を誤るとシール部の破損、水漏れの原因となるため注意が必要です。

よって、適切な状態で使用頂くために下記の内容について理解頂き、相手側配管フランジの
 施工に反映願います。

		フランジタイプ	
		管突合せ溶接式フランジ	差込み溶接式フランジ
形状			
判定	<p style="color: blue; font-weight: bold;">問題ありません</p> ゴム内径と相手フランジ内径が同等であり、シール面に均一に面圧が作用するため最適な仕様です。	<p style="color: blue; font-weight: bold;">問題ありません</p> フランジ内径の内側の隅肉溶接を、突起、段差など無きように綺麗に仕上げて使用してください。	

		フランジタイプ	
		差込み溶接式フランジ	はめ込み式フランジ
形状			
判定	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> 溶接バリ等の突起がある場合は、シール面が破損します。バリ等で綺麗に仕上げてから使用下さい。	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> フランジ部に大きな段差がある場合は、角部に局部的な応力が作用し、シール面が破損する恐れがあります。	<p style="color: red; font-weight: bold;">使用できません</p> シール面は全面で均一に面圧を受ける事が理想的です。局部的に面圧が作用すると、早期に破損する場合があります。